

IV. 授業科目の概要

科目名	キリスト教社会福祉特論			単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	人間福祉特論科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	
授業の 概要	イエス・キリストは2000年前のユダヤに生まれ、30数年の人生を送り、十字架につけられて死んだ。しかし、彼はその生涯を通して、数多くの人々に励ましと慰めを与えた。また、彼を信じた人々は、今もなお他者（隣人）のための働きをなしている。キリスト教的な隣人愛、福祉の精神とはいかなるものか。身近な切り口として聖書というテキストを用いて考えてみたい。								
到達 目標	1. キリスト教的隣人愛とはどのようなものなのか考察する。 2. 聖書、とりわけ新約聖書からイエスの行いと言葉が持つ意味と意義を学ぶ。								
授 業 計 画									
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）					備 考	
第1回	キリスト教とは何か		キリスト教の基礎知識、考え方、歴史、文化など						
第2回	キリスト教の語る愛（1）		隣人愛の精神を聖書のテキストを用いて考える（善いサマリア人その他）						
第3回	キリスト教の語る愛（2）		隣人愛の精神を聖書のテキストを用いて考える（五千人の給食その他）						
第4回	キリスト教の語る愛（3）		神の愛（アガペー）と人間同士の愛（フィリア）を福音書とパウロ書簡から考える						
第5回	「いやし」について（1）		イエスの行ったいやし物語が当時どのような意味を持ったのかいくつかのテキストをあげて考える						
第6回	「いやし」について（2）		イエスの行ったいやし物語が当時どのような意味を持ったのかいくつかのテキストをあげて考える						
第7回	「奇跡」について（1）		奇跡物語とその裏側にある時代背景を考える						
第8回	「奇跡」について（2）		奇跡物語が当時どのような意味を持って受けとめられたのかを考える						
第9回	イエスの死後には		イエスの生涯とその十字架での死が後世にどう影響を与えたのか考える						
第10回	キリスト教的奉仕（1）		古代から現代に至るキリスト教会が果たしてきた奉仕について						
第11回	キリスト教的奉仕（2）		マザーテレサやキング牧師などの生涯を考える						
第12回	差別と人権（1）		人間の幸福を妨げるものとして差別について考える						
第13回	差別と人権（2）		レイシズムやヘイトクライム、偏見や思いこみについてキリスト教的立場から考える						
第14回	共存と共生を目指して（1）		誰もが住みやすく生きやすい社会のために必要なことを考える						
第15回	共存と共生を目指して（2）		講義の振り返り、反省、今後の課題						
評価 方法 及び 評価 基準	レポート（50%）と講義への参加態度（50%）を総合的に判断する。受講者の状況に応じてレポートのテーマは考慮する。								
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』。その他必要な際は講義時に指示する。								
留意点									

科目名	社会福祉原論研究			単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	松本 郁代			授業形態	講義	
授業の概要	そもそも人間は、なぜ他人を助けるのか、ということについて論ずる。その際、これまでの歴史を辿り、客観的な事実を確認することから始める								
到達目標	1. 社会福祉の存在意義について、社会科学として実証的に論じることができるようになること。 2. 社会福祉学以外の学問領域の研究成果についても学ぶこと。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	はじめに	「社会福祉原論」とは何か。「研究」とは何か。							
第2回	古代社会における援助①	「漂泊バンド」「関係にもとづく援助」							
第3回	古代社会における援助②	古代ギリシアおよび古代ローマ帝国における救済							
第4回	古代社会における援助③	原始キリスト教による「福祉」の始まり							
第5回	古代社会における援助④	貧者救済の必然性							
第6回	古代社会における援助⑤	キリスト教による救済							
第7回	近代市民社会における支援①	キリスト教「福祉」の限界							
第8回	近代市民社会における支援②	カソリック教会の「救済」から救貧法へ							
第9回	近代市民社会における支援③	市民社会における貧困							
第10回	近代市民社会における支援④	社会連帯論とその限界							
第11回	近代市民社会における支援⑤	「秩序構築型福祉」							
第12回	現代社会における社会福祉①	慈善事業の系譜を引き継いだ「社会福祉」							
第13回	現代社会における社会福祉②	ノーマライゼーション、パーソナライゼーション							
第14回	現代社会における社会福祉③	親密圏を喪失した者への支援							
第15回	まとめ	社会福祉の原理を考える							
評価方法及び評価基準	レポートおよび授業への参加状況を50%ずつで評価する。 評価基準：①論理性 ②歴史的事実を正確に把握していること ③レポートやレジュメ作成の基本が守られていること								
教材教科書参考書	岩崎晋也(2018)『福祉原理』 有斐閣 近藤克則(2018)『研究の育て方 ―ゴールとプロセスの「見える化」―』医学書院								
留意点	テキストに掲載されている引用文献、参考文献についても読むこととなる。その為、文献検索の方法に慣れておくこと								

科目名	社会科学研究法特論			単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業形態	講義	
授業の概要	この授業では社会科学の特徴を原理的に考え、その上で社会科学の研究方法を学びます。社会科学の研究対象は人間に関わるため、意味の問題やそれについての解釈という問題から離れることができません。つまり社会現象を客観的に捉えることには困難さが伴っています。このような困難さを抱えつつ社会現象を理解することが、どのように可能であるかを考えていきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学にとっての意味、解釈の働きを理解する ・社会科学にとっての客観性を理解する ・社会科学に存在している複数の研究方法のそれぞれの特徴を理解する ・自らの研究を、方法的観点から自覚的に位置づけられるようになる 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	社会科学とは何か 1	社会現象を科学的に理解すること							
第2回	社会科学とは何か 2	社会現象を科学的に理解すること							
第3回	社会科学における客観性 1	社会の認識における客観性とは何か							
第4回	社会科学における客観性 2	社会の認識における客観性とは何か							
第5回	社会科学における研究法の類型 1	社会科学的な研究における方法の分類							
第6回	社会科学における研究法の類型 2	社会科学的な研究における方法の分類							
第7回	社会科学における実証主義	理論と実証の関係							
第8回	社会科学における解釈主義 1	社会現象を解釈すること							
第9回	社会科学における解釈主義 2	社会現象を解釈すること							
第10回	認識と理性 1	社会認識にとっての理性とは何か							
第11回	認識と理性 2	社会認識にとっての理性とは何か							
第12回	システム論と自己組織性 1	社会システムが持つ自己組織性							
第13回	システム論と自己組織性 2	社会システムが持つ自己組織性							
第14回	社会理論と意味 1	社会理論にとって意味が果たす役割							
第15回	社会理論と意味 2	社会理論にとって意味が果たす役割							
評価方法及び評価基準	出席状況、授業中の討論、レポートを総合的に評価します。								
教材教科書参考書	今田高俊編『社会学研究法——リアリティの捉え方』有斐閣 今田高俊『自己組織性』創文社 マックス・ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波書店								
留意点									

科目名	福祉実践人間論特論			単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期 集中
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	菅井 邦明			授業 形態	講義	
授業の 概要	〔キーワード：①福祉実践者の系譜 ②障害事例支援方法 ③人間行動の成り立ち ④共生社会〕 キーワードに関する具体的事例の中から、知識を整理し考察検討しながら学修、研究する。								
到達 目標	現代社会における社会問題を学際的視座からとらえ、個々の事例に内在する個別的事情、問題の経過と背景の理解を深めることを目標とする。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	福祉実践者の系譜（資料講読）①	日本の社会福祉の先人の理念							
第2回	福祉実践者の系譜（資料講読）②	日本の社会福祉の先人の実践							
第3回	福祉実践者の系譜（資料講読）③	現代日本の福祉実践者（高齢）							
第4回	福祉実践者の系譜（資料講読）④	現代日本の福祉実践者（障害）							
第5回	福祉実践者の系譜（資料講読）⑤	現代日本の福祉実践者（児童）							
第6回	福祉実践者の系譜（資料講読）⑥	現代日本の福祉実践者（難病等）							
第7回	福祉実践者の系譜（資料講読）⑦	企業家の福祉実践							
第8回	現代の障害児・者への支援方法の事例	聴覚障害							
第9回	現代の障害児・者への支援方法の事例	知的障害							
第10回	現代の障害児・者への支援方法の事例	自閉症							
第11回	現代の障害児・者への支援方法の事例	発達障害等							
第12回	人間行動の成り立ち	動物行動							
第13回	人間行動の成り立ち	人間行動の基礎							
第14回	共生社会の課題	インクルージョン理論と日本の現状							
第15回	まとめ	学修内容を整理・確認							
評価 方法 及び 評価 基準	ディスカッションや授業への積極的参加の状況を評価する。 また、レポートの内容が資料等の分析や考察が論理的にまとめられているかによって判断する。								
教材 教科書 参考書	論文・資料を配付する。 参考文献は、必要に応じて指示する。								
留意点	授業中、積極的に質問してほしい。								

科目名	生涯福祉特論			単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	石田 和男			授業形態	講義	
授業の概要	自閉症の子供たちやアルツハイマー病の患者、PTSDにかかった人たちの情動を探ることにより、彼らの人格の変化、無関心、冷淡さのなかで起きていることを見つけようと試みる。								
到達目標	心の形を脳の中に見出し（ヘーゲル）、とり、与え、無化するという動きをとらえる。「無化する」作用を破壊的可塑性と呼ぶ。この可塑性は心理的自己の消失のあと生き延びる可能性にかかわっている。破壊から創造が起きている。人間の存在の基礎にある破壊から変容の可能性を読み取ることを目標とする。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	因果性の新地図	システムと偶然							
第2回	脳の自己触発	神経エネルギーから心的エネルギーへ							
第3回	脳損傷	神経学的ロマンから意識不在の劇場へ							
第4回	先行段階なき同一性	逆もどりの不可能性							
第5回	精神分析の異議申し立て	破壊欲動なき破壊は存在しうるか							
第6回	フロイト	あらかじめ存在する亀裂の線							
第7回	心的出来事とはなにか	精神分析と迷信							
第8回	リビドー理論	外傷神経症と戦争神経症を問い直す							
第9回	分離、死、もの	フロイト、ラカン、出会いそこね							
第10回	神経学の異議申し立て	出来事を修復する							
第11回	快原則の彼岸をめぐって	実在するもの							
第12回	おそれの可能性	治療は最悪の事態を忘れさせる							
第13回	修復の両義性	弾性から復元性へ							
第14回	反復強迫	可塑性							
第15回	偶発事故の主体	主体の真理の場としての脳							
評価方法及び評価基準	レポート、各回発表、テストによる総合的評価をする。								
教材教科書参考書	『新たな傷つきし者』カトリーヌ・マラブーノ 2016年（河出書房新社） 『千のプラトー（上・中・下）』ドゥルーズ、ガタリ 2010年（河出文庫）								
留意点	予習、本をあらかじめよく読んでおくこと。								

科目名	福祉援助技術特論 I			単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	小川 幸裕			授業形態	講義	
授業の概要	1) ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組みについて学ぶ 2) ソーシャルワークの理論の活用と検証について学ぶ 3) ソーシャルワークの現場にみる経験値と理論の活用について学ぶ								
到達目標	1) ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組みについて理解する 2) ソーシャルワークの理論の活用と検証について理解する 3) ソーシャルワークの現場にみる経験値と理論の活用について理解する								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み①	日本におけるソーシャルワーク理論と実践						レジュメ発表・ディスカッション	
第2回	ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み②	ソーシャルワーカーによる実践の思想史的生成						レジュメ発表・ディスカッション	
第3回	ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み③	ソーシャルワークの科学という課題						レジュメ発表・ディスカッション	
第4回	ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み④	ソーシャルワークの理論と実践の関係再構築						レジュメ発表・ディスカッション	
第5回	ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み⑤	ソーシャルワークの価値と倫理						レジュメ発表・ディスカッション	
第6回	ソーシャルワークの理論の活用と検証—理論と実践①	問題解決アプローチ						レジュメ発表・ディスカッション	
第7回	ソーシャルワークの理論の活用と検証—理論と実践②	実存主義的アプローチ						レジュメ発表・ディスカッション	
第8回	ソーシャルワークの理論の活用と検証—理論と実践③	エンパワメントアプローチ						レジュメ発表・ディスカッション	
第9回	ソーシャルワークの理論の活用と検証—理論と実践④	エコロジカル・アプローチ						レジュメ発表・ディスカッション	
第10回	ソーシャルワークの理論の活用と検証—理論と実践⑤	ナラティブ・アプローチ						レジュメ発表・ディスカッション	
第11回	ソーシャルワークの理論の活用と検証—理論と実践⑥	ストレングス視点アプローチ						レジュメ発表・ディスカッション	
第12回	ソーシャルワークの現場にみる経験知と理論の活用、その検証①	知的障害者領域におけるソーシャルワーク実践						レジュメ発表・ディスカッション	
第13回	ソーシャルワークの現場にみる経験知と理論の活用、その検証②	高齢者領域におけるソーシャルワーク実践						レジュメ発表・ディスカッション	
第14回	ソーシャルワークの現場にみる経験知と理論の活用、その検証③	保健医療領域におけるソーシャルワーク実践						レジュメ発表・ディスカッション	
第15回	ソーシャルワークの現場にみる経験知と理論の活用、その検証④	精神科領域におけるソーシャルワーク実践						レジュメ発表・ディスカッション	
評価方法及び評価基準	レジュメ作成50%、報告50% レジュメの作成は、先行研究の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などを総合的に評価する。 報告は、発言頻度やその内容を評価する。								
教材教科書参考書	その都度指示をする。								
留意点									

科目名	福祉援助技術特論Ⅱ			単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	小川 幸裕			授業 形態	講義	
授業の 概要	1) ソーシャルワークにおけるアドボカシーの歴史を学ぶ 2) ソーシャルワークにおけるアドボカシーの機能について学ぶ 3) ソーシャルワークアドボカシーの実践事例を学ぶ								
到達 目標	1) ソーシャルワークにおけるアドボカシーの歴史を理解する 2) ソーシャルワークにおけるアドボカシーの機能について理解する 3) ソーシャルワークアドボカシーの実践事例を理解する								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの歴史	アメリカにおけるソーシャルワークアドボカシーの変遷と議論①						レジメ発表・ディスカッション	
第2回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの歴史	アメリカにおけるソーシャルワークアドボカシーの変遷と議論①						レジメ発表・ディスカッション	
第3回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの歴史	日本におけるソーシャルワークアドボカシーの変遷と議論①						レジメ発表・ディスカッション	
第4回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの歴史	日本におけるソーシャルワークアドボカシーの変遷と議論②						レジメ発表・ディスカッション	
第5回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの歴史	権利擁護概念とソーシャルワークアドボカシー概念						レジメ発表・ディスカッション	
第6回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの機能	ソーシャルワークにおけるアドボカシー機能①						レジメ発表・ディスカッション	
第7回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの機能	ソーシャルワークにおけるアドボカシー機能②						レジメ発表・ディスカッション	
第8回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの機能	ソーシャルワークにおけるアドボカシー機能③						レジメ発表・ディスカッション	
第9回	ソーシャルワークにおけるアドボカシーの機能	ソーシャルワークにおけるアドボカシー機能④						レジメ発表・ディスカッション	
第10回	ソーシャルワークアドボカシーの実践事例	独立型社会福祉士とソーシャルワークアドボカシー①						レジメ発表・ディスカッション	
第11回	ソーシャルワークアドボカシーの実践事例	独立型社会福祉士とソーシャルワークアドボカシー②						レジメ発表・ディスカッション	
第12回	ソーシャルワークアドボカシーの実践事例	独立型社会福祉士とソーシャルワークアドボカシー③						レジメ発表・ディスカッション	
第13回	ソーシャルワークアドボカシーの実践事例	法定後見活動とソーシャルワークアドボカシー①						レジメ発表・ディスカッション	
第14回	ソーシャルワークアドボカシーの実践事例	法定後見活動とソーシャルワークアドボカシー②						レジメ発表・ディスカッション	
第15回	ソーシャルワークアドボカシーの実践事例	法定後見活動とソーシャルワークアドボカシー③						レジメ発表・ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	文献研究、実践研究（社会福祉等の実践活動）への取り組みと、その成果について報告（口頭発表、レポート）等による総合的評価とする。								
教材 教科書 参考書	その都度指示をする。								
留意点									

科目名	臨床心理学特論			単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	西沢 勝則			授業 形態	講義	
授業の 概要	臨床心理学の代表的な理論と方法について概観し、臨床心理学の目的、種々のアセスメント法、心理療法や実践場面に ついて理解する。								
到達 目標	さまざまな臨床現場でどのような要請と理論に基づいて、心理臨床が行われているかを理解する枠組みを得ること、 自身の今後の学習課題を明確にできること。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	臨床心理学の目的と方法	心理学と応用心理学の関係性							
第2回	心理アセスメント1	アセスメントの目的と方法							
第3回	心理アセスメント2	知能・発達検査							
第4回	心理アセスメント3	パーソナリティ検査、神経心理学的検査							
第5回	心理療法1	フロイト派のアプローチ							
第6回	心理療法2	ユング派のアプローチ							
第7回	心理療法3	ロジャーズ派のアプローチ							
第8回	心理療法4	認知行動療法							
第9回	心理療法5	マインドフルネス							
第10回	諸アプローチの課題	諸アプローチの特徴と課題の整理							
第11回	心理臨床1	医療分野における心理臨床							
第12回	心理臨床2	教育分野における心理臨床							
第13回	心理臨床3	福祉分野における心理臨床							
第14回	今後の学習課題	心理臨床の場と対象、関連領域の整理							
第15回	まとめ	レポート発表							
評価 方法 及び 評価 基準	授業内容についての理解、出席状況、関連する参考文献・資料の精査の程度、レポートにより総合的に評価する。レ ポートでは、心理療法諸アプローチの特徴及び課題と今後の自身の学習課題について取り上げること。								
教材 教科書 参考書	参考書 倉光 修 臨床心理学概論 放送大学教育振興会 2020 ISBN978-4-595-32182-5								
留意点	心理療法諸アプローチの方法論に関する知識のみならず、その理論的背景についても関心を持つこと。								

科目名	児童家庭福祉特論			単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	佐藤 優輝			授業形態	講義	
授業の概要	急速に進行する少子化の中で求められる児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉の理念、権利擁護について学習しながら、特に増加の一途を辿る児童虐待や社会的養育の分野等、特別な支援を要する児童や家庭の支援について知識を深める。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の理念について理解する。 2. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 3. 児童虐待の現状について理解する。 4. 社会的養育の現状、課題について理解し、将来像について考える。 5. 特別なニーズを持つ児童、家庭の支援について考える。 								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	児童家庭福祉の概要(1)	少子高齢化等、児童家庭を取り巻く現状について学ぶ。							
第2回	児童家庭福祉の概要(2)	家庭の機能について学ぶ。							
第3回	児童の権利擁護	児童の権利について理解する。							
第4回	児童虐待	児童虐待の現状、被虐待児の特徴について理解する。							
第5回	社会的養育(1)	社会的養育の概要について学ぶ。							
第6回	社会的養育(2)	社会的養育の歴史的変遷など							
第7回	社会的養育(3)	支援者の資質と専門性、倫理観と自己覚知について理解する。							
第8回	社会的養育(4)	里親制度と里親、里親ファミリーホームの実践について理解する							
第9回	社会的養育(5)	施設の小規模化と地域分散化について理解する。							
第10回	社会的養育(6)	社会的養育における家族支援について理解する。							
第11回	支援者理解	支援者のメンタルヘルスとSV、被措置児童虐待防止の取り組みについて理解する。							
第12回	一時保護	一時保護の現状と課題について理解する。							
第13回	児童相談所	児童相談所の役割、機能について理解する。							
第14回	障がい児支援	障がい児支援の現状について理解する。							
第15回	関係機関との連携	児童相談所、要保護児童対策地域協議会等を含めた関係機関との連携の実際と課題について理解する。							
評価方法及び評価基準	発表40%・講義時のコメント20%・レポート40%								
教材教科書参考書	各主題に応じて適宜提示する								
留意点									

科目名	高齢者福祉心理学特論			単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	工藤 久			授業形態	講義	
授業の概要	<p>高齢者学(Gerontology)と高齢者福祉心理学、高齢者福祉臨床における諸問題について概観し、その中からヘルシエイジングにおけるもの忘れの病理に触れる。さらに認知症者の記憶病理について、主に神経心理学、記憶心理学のサイドから論考し、臨床的処遇についての具体的な事例についての分析をすすめる。記憶リハビリテーションの理論と方法について論じる。</p>								
到達目標	<p>健康的に推移するヘルシエイジング高齢者の記憶メカニズムの記憶病理的分析を行う方法について学び、具体的な事例について知る。認知症者の記憶病理を記憶心理学的分析によって解明を試みる。認知症者の記憶リハビリ実践の臨床例について検討する。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	高齢者(老年)学	高齢者研究の歴史と問題							
第2回	高齢者福祉学の現在	社会福祉の現代的課題							
第3回	高齢者の生涯発達と福祉	ライフサイクル、ライフスタイル							
第4回	高齢者福祉心理学の目的と方法	社会福祉と人間福祉の視点							
第5回	高齢者の認知と福祉問題	自己認知と文化・社会的環境認知							
第6回	健康高齢者のもの忘れ	物忘れは人間的発達現象							
第7回	物忘れの記憶病理	短期記憶とヒポカンプス(海馬)の機能							
第8回	記憶のトレーニング	初期認知症とMCIの記憶学習							
第9回	認知症者の記憶	直接記憶、ワーキング・メモリー							
第10回	認知症の記憶査定法	系列記憶、ダイジェット記憶、エピソード記憶							
第11回	認知症の進行と記憶	進行性病変にともなう記憶能力の変化							
第12回	事例研究1	初期・中期認知症者の認知記憶能力							
第13回	事例研究2	末期認知症者の認知記憶能力							
第14回	認知症者の記憶トレーニング	記憶再生法とワーキングメモリー							
第15回	認知症者の記憶リハビリテーション	生活動作法、再認法、逸話法など							
評価方法及び評価基準	出席状況、レポート、関連文献の検索状況を総合的に審査する。								
教材教科書参考書	各主題に応じて適宜提示する。								
留意点	身近な高齢者との交流と高齢者の行動生態学的観察がのぞましい。								

科目名	人間福祉教育特論			単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	
授業の 概要	〔キーワード：「人間福祉教育学」の構想、「人間福祉教育」の確立〕 「人間福祉のための教育」は社会福祉の世界でも教育の世界でも重要な課題であるにも拘らず、これまで両世界は乖離していた。本特論ではその両世界を一つの世界に構築し直し、実り多い成果をあげるための方法の確立に取り組む。そのための前提は新しい「人間福祉教育学」を構想し、かつ体系づけることにある。本特論ではそのための資料を作成し、深く考察することになる。								
到達 目標	(1)「人間福祉教育学」を構想し、体系づけること、(2)「人間福祉教育の方法」を確立すること。								
授 業 計 画									
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考	
第1回	教育福祉の実践家像		教育福祉の実践理論						
第2回	実践理論の本質		生成過程、統合的性格						
第3回	実勢探求		教育福祉の実践展開						
第4回	人間福祉の実践家像		類型学、活動条件、主体的立場						
第5回	福祉臨床の基礎体系		福祉臨床の萌芽						
第6回	援助方法の仮説的定義		基礎体系の概要						
第7回	診断主義と機能主義		診断の原理、治療の原理						
第8回	基本概念の比較検討		パーソナリティ理論						
第9回	個別援助の基礎技術		個別援助の基礎技術						
第10回	援助過程の手続き		面接の目的と方法						
第11回	援助面接の基本事項		人間援助の人間学						
第12回	人間援助と人生福祉		限界状況への援助						
第13回	人生福祉と自己援助		重傷患者の自助過程						
第14回	危機状況と人生態度		自己援助の展開過程						
第15回	生死問題		限界状況への援助、内的生命史、ターミナルケア						
評価 方法 及び 評価 基準	出席状況、レポート審査、口頭試問による。								
教材 教科書 参考書	「人生福祉の根本問題」杉本一義、彩流社、2014年								
留意点	継続的に授業の内容をノートしておくこと。実践に役立つ理論構築を目指す。修論作成にも役立たせる。								

科目名	障害者福祉特論			単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名				授業 形態	講義	
授業の 概要	障害者権利条約には障害者が「他の者との平等を基礎として」地域で当たり前に暮らしていけるよう諸施策を確保するべきと記載されている。日本では、2010年代に条約批准を目的として大きな制度改革が図られた。しかし、条約の精神と障害者の生活にはまだまだ距離があるといわざるを得ない。障害者の権利を踏まえ、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会にするためにはどのような対策・対応が必要か追究する。								
到達 目標	障害者福祉の基礎的知識の習得から様々な事例課題について検討し実践的知識と論理的思考を習得することである。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	障害者理解の基礎①	三障害等の理解							
第2回	障害者理解の基礎②	出生前診断の是非							
第3回	障害者理解の基礎③	難病法							
第4回	障害者施策の理解①	障害者基本法、障害者差別禁止法（合理的配慮）、							
第5回	障害者施策の理解②	障害者雇用促進法（重度障害者雇用含む）							
第6回	障害者施策の理解③	バリアフリー新法							
第7回	障害者施策の理解④	関連障害者法の改正（障害者総合支援法、障害者虐待防止法）							
第8回	障害者施策の理解⑤	成年後見人制度							
第9回	障害者の権利①	意思疎通困難者の生活支援							
第10回	障害者の権利②	重度障害者の生活支援							
第11回	障害者の権利③	施設コンフリクト							
第12回	障害者の権利④	社会的入院の背景							
第13回	障害者の権利⑤	人権運動							
第14回	障害者の権利⑥	尊厳死							
第15回	まとめ	レポート報告							
評価 方法 及び 評価 基準	レジュメ作成・報告とレポート課題で評価する。各テーマを事前学習し、課題を探しまとめ、自分自身の考えを導き出してプレゼンしたものを評価する。また最終的には障害者の権利についてレポートとしてまとめ報告したのもも評価する。								
教材 教科書 参考書	DPI（障がい者インターナショナル）日本会議編（2016）「知っていますか？障害者の権利一問一答」解放出版社（ISBN978-4-7592-8285-6）								
留意点									

科目名	福祉行政特論			単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名	堀内 健志			授業形態	講義	
授業の概要	〔キーワード：公法学から見た福祉行政の諸問題〕 福祉行政に関わる諸問題を特に憲法と行政法の両面から展開する。 社会福祉士国家試験問題を素材に、条文や制度の趣旨を明らかにし、それらがいかに重要かを学ぶ。								
到達目標	社会福祉士などの試験にも対応できるように、公法学上の諸問題を多角的に理解できるようになることを目標とする。 福祉実践に欠かすことのできない知識として、法や制度を理解することをめざし、さらに国民のための福祉を実現するための福祉行政の有り様を考察することを目標とする。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	憲法と福祉行政	社会福祉と法							
第2回	福祉国家	福祉のために法は何ができるのか。							
第3回	近代国家と現代国家	近代・現代国家の比較（包括的基本権および平等権ほか）							
第4回	日本国憲法における社会権	日本国憲法における基本的人権							
第5回	個人権の分類	成年後見や個人情報保護、障害者自立支援法ほか							
第6回	憲法25条と関連の判例の研究（1）	憲法・法学（判例を通して基本的人権等を考える）①							
第7回	憲法25条と関連の判例の研究（2）	憲法・法学（判例を通して基本的人権等を考える）②							
第8回	憲法25条と関連の判例の研究（3）	憲法・法学（判例を通して基本的人権等を考える）③							
第9回	行政法と福祉行政	福祉のために法は何ができるか。							
第10回	行政法の構造	行政法—社会福祉関連法規①							
第11回	行政法の基礎知識・基本諸問題	行政法—社会福祉関連法規②							
第12回	行政法体系の変遷	行政法—社会福祉関連法規③							
第13回	「法律による行政」の原理	行政法—社会福祉関連法規④							
第14回	内部行政法	行政法—社会福祉関連法規⑤							
第15回	外部行政法	行政法—社会福祉関連法規⑥							
評価方法及び評価基準	授業への積極的参加度、レポート審査などにより総合的に評価する。								
教材教科書参考書	福祉のための法学[第3版] 野崎和義著 ミネルヴァ書房								
留意点	最新の情報を取り入れるので、必ず出席すること。								

科目名	社会福祉法制特論		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期 集中
担当者名	安藤 清美		授業形態		講義			
授業の 概要	<p>(キーワード：夫婦、親子、扶養、親族、相続、成年後見制度)</p> <p>民法典の第4編・親族、第5編・相続(家族法)を中心に、法律が我々の人生に、どのように結びついているのかを知る。さらには、超高齢化社会の到来、晩婚・未婚化による少子化の進行、生殖補助医療技術の進展による親子関係、姓、性の選択、等、民法制定時には想定していなかった問題について、民法(とくに家族法)は対応できているのか否かを検討し、近時の民法改正についても言及するものである。</p>							
到達 目標	<p>第4編・親族、第5編・相続について、基本事項に関する質問に答えることができる。事案を見て、何が法的に問題となっているかを指摘し、それに関する自らの意見を述べるができる。</p>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考	
第1回	民法とは何か	民法の意義、構成、改正等について理解する						
第2回	民法の基本原則	民法の基本原則について理解し、所有権と権利濫用に関する判例を研究する。判例：宇奈月温泉(大判昭和10・10・5)等						
第3回	権利の主体	権利能力及び行為能力について理解し、胎児の権利能力の例外に関する判例を研究する。判例：阪神電鉄事件(大判昭和7・10・6)等						
第4回	制限行為能力者	制限行為能力者について理解し、制限行為能力者に関する判例を研究する。判例：制限行為能力者の詐術(最判昭和44・2・13)等						
第5回	法律行為	法律行為について理解し、公序良俗違反とされた、愛人への遺贈、男女平等違反とされた、日産自動車事件等の判例を研究する						
第6回	法律行為の代理	法律行為の代理について理解し、親権者による代理権の濫用、夫婦相互の日常家事代理権と表見代理に関する判例を研究する						
第7回	婚姻の成立	婚姻の成立について理解し、婚姻意思の不存在(最判昭和44・10・31)、夫婦同氏制の合憲性(最大判平成27・12・16)等を研究する						
第8回	婚姻の効力	婚姻の効力について理解し、子どもの学習用教材の購入に関する判例、日常家事債務の範囲(東京地判平成10・12・2)を研究する						
第9回	婚姻の解消	婚姻の解消について理解し、配偶者の不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権、有責配偶者による離婚請求に関する判例を研究する						
第10回	内縁	内縁について理解し、離婚による財産分与額の算定、ならびに、死亡による内縁解消と財産分与、に関する判例を研究する						
第11回	親子	実子・養子について理解し、虚偽の嫡出子出生届と養子縁組の成否、及び、代理出産と親子関係に関する判例を研究する						
第12回	扶養	扶養制度について理解し、老親扶養に関する判例(広島家審平成2・9・1)を研究する						
第13回	法定相続	相続人・相続分等について理解し、嫡出でない子の法定相続分、及び、死亡保険金と特別受益、に関する判例を研究する						
第14回	相続の承認及び放棄	相続の承認及び放棄等について理解し、熟慮期間の起算点、及び、相続放棄と登記、に関する判例を研究する						
第15回	遺言及び遺留分	遺言及び遺留分について理解し、遺言の解釈、及び、死因贈与の撤回の可否、に関する判例を研究する						
評価 方法 及び 評価 基準	参加態度、及びレポートで評価する							
教材 教科書 参考書	教科書：安藤清美著『入門民法総則 第2版』法学書院(2018年)							
留意点	教科書は、必ず準備すること							

科目名	福祉情報科学特論			単位数	2単位	対象	1年	開講 学期	後期
区分	人間福祉特論科目	選択	担当者名				授業 形態	講義	
授業の 概要	福祉分野における情報科学の現状および諸問題を研究し、新しい時代に出会う諸問題について考察できるようになる。								
到達 目標	障害者や高齢者等福祉分野における情報科学の研究と応用の概要が分かるようになり、それらに関連した諸情報を自己発信できるようになる。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考		
第1回	1. コンピュータの歴史とコンピュータ理論(1)	情報伝達の歴史と電子技術の発達の関わりについて							
第2回	コンピュータ技術の進展と歴史（概要）	プログラム内蔵方式、データの符号化、オペレーティングシステムの出現							
第4回	データのデジタル表現（1）	文字データの符号化、コード（ASCIIコード・JISコード・Unicode）							
第5回	データのデジタル表現（2）	音の符号化、画像の符号化、データの圧縮と復元							
第6回	情報の発信（1）	ホームページによる情報発信(1)							
第7回	情報の発信（2）	ホームページによる情報発信(2)							
第8回	情報の発信（3）	ホームページによる情報発信(3)							
第9回	人工知能（1）	人工知能の歴史と人工知能の研究・応用(1)							
第10回	人工知能（2）	現在展開されている人工知能の例ー学習機能、遺伝的アルゴリズムなど							
第11回	人工知能（3）	人工知能の例ー知的エージェント、協調フォイルタリング							
第12回	情報社会と情報モラル（1）	情報セキュリティの確保、情報の流失とセキュリティ対策							
第13回	情報社会と情報モラル（2）	情報社会における個人の責任と法律、知的所有権							
第14回	情報システムと人間	ヒューマンインターフェース、ユーザビリティ、アクセシビリティ、ユニバーサルデザイン							
第15回	課題研究ーレポート提出ー	障害者について、デジタルデマンド解消の研究について							
評価 方法 及び 評価 基準	評価方法：研究レポート：情報社会の今日的ないろいろな課題の理解度とこれから立ち向かう考え方を総合評価する。								
教材 教科書 参考書	プリント教材								
留意点	パソコンの実践操作学習は含まれない。								

科目名	人間福祉演習 A			単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
区分	人間福祉演習科目	選択	担当者名	松本 郁代			授業形態	演習	
授業の概要	修士論文執筆にあたり、何のために何を明らかにしたいのかを、社会福祉の歴史的研究の領域で研究レビューを行いながら、論文テーマ設定を行う。								
到達目標	修士論文作成にあたり、その基礎を構築するために、講読・報告・資料の収集等について学ぶ。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考		
第1回	社会福祉の歴史的研究とは	研究のもつ意味		第16回	社会福祉史研究の到達点	社会福祉研究の到達点と展望			
第2回	研究レビューとは	先行研究を探る		第17回	社会福祉史研究の到達点①	社会福祉学における理論史研究①			
第3回	研究レビュー①	研究レビューの実際		第18回	社会福祉史研究の到達点②	社会福祉学における理論史研究②			
第4回	研究レビュー②	意味のある先行研究		第19回	社会福祉史研究の到達点③	社会福祉学における理論史研究③			
第5回	研究レビュー③	「研究」といえる研究とは		第20回	社会福祉史研究の到達点④	社会福祉学における政策史研究①			
第6回	研究レビュー④	図書館利用		第21回	社会福祉史研究の到達点⑤	社会福祉学における政策史研究②			
第7回	研究レビュー⑤	研究レビューを報告しよう		第22回	社会福祉史研究の到達点⑥	社会福祉学における政策史研究③			
第8回	研究レビュー⑥	単行本による研究レビュー		第23回	社会福祉史研究の到達点⑦	社会福祉学における実践史研究①			
第9回	研究レビュー⑦	学会誌による研究レビュー		第24回	社会福祉史研究の到達点⑧	社会福祉学における実践史研究②			
第10回	研究レビュー⑧	学界・学会回顧		第25回	社会福祉史研究の到達点⑨	社会福祉学における実践史研究③			
第11回	研究レビュー⑨	『社会事業史研究』による研究レビュー		第26回	社会福祉史研究の到達点⑩	社会福祉学の隣接領域①			
第12回	研究レビュー⑩	『社会福祉学』による研究レビュー		第27回	社会福祉史研究の到達点⑪	社会福祉学における海外史研究①			
第13回	文献検索①	文献検索は自由自在か		第28回	社会福祉史研究の到達点⑫	社会福祉学における海外史研究②			
第14回	文献検索②	文献検索の鉄則		第29回	社会福祉史研究の到達点⑬	社会福祉学の隣接領域②			
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ		第30回	後期のまとめ	さて、修士論文のテーマは？			
評価方法及び評価基準	演習への取り組み方とその成果によって評価する。								
教材教科書参考書	その都度指示をする。								
留意点	学部時代に、社会福祉の歴史的なことについて、卒論を執筆していることや、「社会福祉発達史」にあたる科目を履修していることが望ましい。								

科目名	人間福祉演習B			単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
区分	人間福祉演習科目	選択	担当者名	石田 和男			授業形態	演習	
授業の概要	修士論文と関連のある文献資料の整備から始め、さらに文献講読をすすめる。先行研究の査読・検討から研究の構想を練り、研究仮説の設定と方法・手続きを決め、リサーチを展開し、修士論文作成のためのベースづくりをする。								
到達目標	この演習は修士論文題目研究と密接なので、文献資料ないしフィールドワークを中心とする調査研究であれ、的確な文献資料探査をベースに行わなければならない。 また、論文猛省にあたっては、データ分析とその解釈・説明の信頼性と妥当性が問われるので、誤謬、独断と偏見がないかを絶えずフィードバックする必要がある。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考		
第1回	修士論文の意義	学問の発展に貢献		第16回	研究方法・手順の検討	方法・手順の妥当性と適切性を検討する。方法・手順の妥当性と適切性の論証をする。			
第2回	研究仮説の設定	先行研究に学び、生産的研究仮説をたてる。		第17回	研究方法・手順の決定	具体的な研究手続の策定をする。			
第3回	仮説検証の方法・手続き	仮説検証方法・手続きの妥当性と適合性		第18回	研究作業の実施と展開	作業手順に従い研究活動を行			
第4回	修士論文の題目の設定	設定理由と論題の研究上の意義について		第19回	研究作業の実施と継続展開	鋭意、積極的な研究パフォーマンスを展開			
第5回	研究スケジュールの策定	研究日程を作成する。		第20回	研究作業の実施と継続展開	鋭意、積極的な研究パフォーマンスを展開			
第6回	関連文献資料の検索と収集	先行研究と現行研究のいずれについても個人的興味・関心、主体性は大事である。不明・疑問点を無くする努力をする。		第21回	研究作業の実施と継続展開	鋭意、積極的な研究パフォーマンスを展開			
第7回	関連文献資料の検索と収集	先行研究と現行研究のいずれについても個人的興味・関心、主体性は大事である。不明・疑問点を無くする努力をする。		第22回	論文作成構想の発表	先行研究論文を参考にしながら構想を練る。			
第8回	関連文献資料の検索と収集	先行研究と現行研究のいずれについても個人的興味・関心、主体性は大事である。不明・疑問点を無くする努力をする。		第23回	論文のレイアウト作成	簡明にして要を得たレイアウト			
第9回	関連文献資料の講読と検討	研究価値が認められた文献の講読・査読。難読・不明な点の解明。さらに精読を続ける。		第24回	各章、節、項目の検討	伝統的なスタイルを参考に			
第10回	関連文献資料の講読と検討	研究価値が認められた文献の講読・査読。難読・不明な点の解明。さらに精読を続ける。		第25回	論文記述内容の検討	文章全体の文脈や整合性に留意			
第11回	関連文献資料の講読と検討	研究価値が認められた文献の講読・査読。難読・不明な点の解明。さらに精読を続ける。		第26回	論文記述内容の検討	誤字、脱字など注意、推考・推敲を重ねる。			
第12回	主要文献資料の講読	論題に直接的に関連する文献資料に絞る。主要文献の紹介発表の試み。自己の論題との関係性、論題の創造性。		第27回	論文記述内容の検討	誤字、脱字など注意、推考・推敲を重ねる。			
第13回	主要文献資料の講読	論題に直接的に関連する文献資料に絞る。主要文献の紹介発表の試み。自己の論題との関係性、論題の創造性。		第28回	引用、参考文献の整備	本文中にルビをふる。			
第14回	主要文献資料の講読	論題に直接的に関連する文献資料に絞る。主要文献の紹介発表の試み。自己の論題との関係性、論題の創造性。		第29回	レジュメの作成	全体を1,800字程度にまとめる。			
第15回	研究方法・手順の検討	方法・手順の妥当性と適切性を検討する。方法・手順の妥当性と適切性の論証をする。		第30回	論文発表の要領	要項を30分以内で発表する。			
評価方法及び評価基準	出席状況、文献検索・査読の確度・精度を重点的に評価する。さらに論文作成のプロセスを経過観察して評価する。								
教材教科書参考書	備え付けの図書・文献資料を活用することと、さらに参考資料、参考文献を示唆する。								
留意点	独創的イデーは大切だが、常に古典的研究や先行研究文献に学ぶ姿勢がのぞましい。								

科目名	人間福祉演習 C			単位数 時 間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
区分	人間福祉演習科目	選択	担当者名	高橋 和幸			授業 形態	演習	
授業の 概要	修士論文執筆と修論研究発表会での発表を含めて院生個々に対して指導・助言を行う。本演習を通じ、院生個々人の研究テーマに応じた研究指導を行う。先行研究を調べた上で、問題意識(関心があるテーマや仮説の設定)を明確にし、問題を解明する上での適切な調査方法の選択、調査の実施、調査結果から得られた新知見を踏まえ問題設定に対応した結論を導き出せるよう研究指導を行う。修士論文の執筆はもちろん、その研究成果を修論研究発表会で発表できる能力が身につけられるよう指導・助言を行う。								
到達 目標	既往研究の到達レベルと限界を確認したうえで、自ら新知見を見出しオリジナリティのある論文が執筆できることを目標とする。また、修士論文に係る調査研究で得られる成果には限界があること、その限界を踏まえて新たな課題を自ら発見し生涯にわたって追究し続けることの意義を理解できることも目標とする。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考		
第1回	研究課題の背景	関心のある問題や関心のあるテーマについて討論		第16回	研究仮説と調査方法の再確認、スケジュール確認	草案をもとに研究仮説と調査方法の再確認、スケジュール確認を行う。必要に応じて追加の調査の実施も検討する			
第2回	研究の目的	仮説の設定と今後の研究計画について討論		第17回	調査結果を踏まえた論理展開 1	草案をもとに調査結果を踏まえた論理展開について検討、論旨の明確化・一貫性についても検討			
第3回	先行研究のレビュー 1	先行研究の探し方について討論		第18回	調査結果を踏まえた論理展開 2	前回の検討結果をもとに草稿作成			
第4回	先行研究のレビュー 2	収集した先行研究結果について報告、討論		第19回	論文構成の再点検	データ分析処理の適切性、得られた新しい知見について、問題設定に対応した結論になっているか検討			
第5回	先行研究のレビュー 3	収集した先行研究結果について報告、討論、理論的な枠組みについて考える		第20回	草稿発表	章立て、引用文献表示、文章表現について確認する。副査教員他、第三者の立場の教員からも修正箇所の指摘をもらう			
第6回	先行研究研究レビューを踏まえた上での問題の明確化 1	先行研究研究レビューを踏まえたうえで問題の明確化を行う。あわせて、理論的な枠組みを明確化する		第21回	草稿の再検討 1	修士論文審査規定に対応しているか確認し、修正箇所を適宜修正する			
第7回	先行研究研究レビューを踏まえた上での問題の明確化 2	これまでと違った観点から先行研究をレビューしその結果も踏まえて、何をどのように解明したいか収れんする		第22回	草稿の再検討 2	修士論文審査規定に対応しているか確認し、修正箇所を適宜修正する			
第8回	問題を解明する上での適切な調査方法について 1	問題を解明する上での適切な調査方法について報告してもらい討論		第23回	草稿の再検討 3	修士論文審査規定に対応しているか確認し、修正箇所を適宜修正する			
第9回	問題を解明する上での適切な調査方法について 2	問題を解明する上での適切な調査方法について再吟味する		第24回	見直した草稿の発表	副査教員他、第三者の立場の教員からも修正箇所の指摘をもらう			
第10回	調査方法の手順と妥当性	ブレ調査等の実施報告をもらい調査方法の手順と妥当性について討論		第25回	草稿の再検討 4	修士論文審査規定に対応しているか確認し、修正箇所を適宜修正する			
第11回	今後の研究スケジュールの確認と章立て	今後の研究スケジュールの確認と章立て構想に入る		第26回	修論最終検討	修士論文審査規定に対応しているか最終確認する			
第12回	これまでの調査結果の報告	これまでの調査結果の報告、章立て構成の再検討		第27回	修論研究発表の準備 1	レジュメづくり、結果を簡潔に話せる力、想定される質問への返答対策等			
第13回	研究目的・方法・先行研究レビューまでの草稿	書き上げることができた箇所までで良いので草案を報告してもらい、討論		第28回	修論研究発表の準備 2	結果を簡潔に話せる力、想定される質問への返答対策等			
第14回	中間発表会	進捗状況を報告してもらい、討論。副査教員他、第三者の立場の教員からも修正箇所の指摘をもらう		第29回	修論研究発表会	発表・質疑応答を行う			
第15回	前期のまとめ	本格的な調査実施までの準備と、中間報告時に気づいた改良点の洗い出しを行う		第30回	総まとめ	研究の限界と新たな研究課題の設定を行う。生涯にわたり追究し続けようとする動機付け、ふりかえりを行う			
評価 方法 及び 評価 基準	先行研究等の文献検索への取り組み状況、ブレ調査への取り組み状況、調査の実施と結果の分析作業への取り組み状況、草稿を仕上げ何度も推敲する作業への取り組み状況、演習授業中の討論への取り組み状況、論文の内容、研究論文発表会での発表内容など、総合的に評価する。								
教材 教科書 参考書	院生各自の研究テーマに応じて、話し合いながら適宜、参考書を選定する。								
留意点	とにかく早い段階から関心があるテーマについて先行研究(文献)を探し精読すること。既往研究の到達レベルと限界を確認できれば、自分がどこをどのように調べることで「新知見」が生まれそうなのか、ぼんやりと輪郭が見えてくる。何よりこれに早く着手して欲しい。								

科目名	人間福祉演習D			単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	通年
区分	人間福祉演習科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業形態	演習	
授業の概要	本演習では以下のプロセスを通じて論文の完成を目指します ・テーマ・仮説を設定する ・先行研究の読解を通してテーマ・仮説を再検討する ・データの解釈を通じて仮説を検証する ・検証結果を基に論文を執筆する								
到達目標	・問題を明確にし、しっかりとした仮説を設定できるようになる ・専門的な文献をしっかり読めるようになる ・論理的な文章が書けるようになる								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考
第1回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文テーマの設定 1			第16回	論文の執筆・推敲	論文作成スケジュールの検討		
第2回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文テーマの設定 2			第17回	論文の執筆・推敲	論文構成の検討 1		
第3回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	仮説の検討 1			第18回	論文の執筆・推敲	論文構成の検討 2		
第4回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	仮説の検討 2			第19回	論文の執筆・推敲	論文の作成と論理展開の検討		
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	方法の検討 1			第20回	論文の執筆・推敲	論文の作成と論理展開の検討		
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	方法の検討 2			第21回	論文の執筆・推敲	論文の作成と論理展開の検討		
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 1			第22回	論文の執筆・推敲	論文の作成と論理展開の検討		
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 2			第23回	論文の執筆・推敲	論文の作成と論理展開の検討		
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 3			第24回	論文の執筆・推敲	草稿の発表		
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 4			第25回	論文の執筆・推敲	草稿の再検討 1		
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 5			第26回	論文の執筆・推敲	草稿の再検討 2		
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 6			第27回	論文の執筆・推敲	草稿の再検討 3		
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 7			第28回	論文の執筆・推敲	草稿の再検討 4		
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 8			第29回	論文の執筆・推敲	草稿の再検討 5		
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	文献の検討 9			第30回	論文の執筆・推敲	草稿の再検討 6		
評価方法及び評価基準	出席状況、授業中の討論、論文の内容を総合的に評価します。								
教材教科書参考書	適宜指示します								
留意点									

科目名	福祉援助技術領域実習			単位数	4単位	対象学年	2年	開講学期	前期集中
区分	人間福祉実習科目	必修	担当者名				授業形態	実習	
授業の概要	福祉援助技術領域実習は利用者（高齢者、障害者等）の理解に始まり、制度理解、社会福祉全般の知識や援助技術など学んだことを活用する。実習後は、実習計画にあげた課題の成果をふりかえりながら総括しレポートを作成する。								
到達目標	社会福祉事業所等の現場実習を通して、各実習機関の役割、機能を理解する。また、事業所で働く社会福祉専門職の専門性、専門職性、専門職制度の理解を深める。また社会福祉事業所について、経営学的分析法の「SOWT分析法」により調査し、社会福祉施設又は福祉事業所をより良くしていくための建設的な取り組みを様々な視点から分析し評価する。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	福祉援助技術領域実習オリエンテーション	実習先で必要とされる社会福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解①							
第2回	福祉援助技術領域実習	実習先で必要とされる社会福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解②							
第3回	福祉援助技術領域実習	社会福祉専門職の職業倫理と法的責務に関する理解							
第4回	福祉援助技術領域実習	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）							
第5回	福祉援助技術領域実習	社会福祉専門職の専門性、専門職性、専門職制度の理解①							
第6回	福祉援助技術領域実習	社会福祉専門職の専門性、専門職性、専門職制度の理解②							
第7回	福祉援助技術領域実習	「SOWT分析法」による社会福祉施設の分析①							
第8回	福祉援助技術領域実習	「SOWT分析法」による社会福祉施設の分析②							
第9回	福祉援助技術領域実習	実習記録内容及び記録方法に関する理解							
第10回	福祉援助技術領域実習	事前訪問と確認事項							
第11回	福祉援助技術領域実習	実習計画の作成・確認							
第12回	福祉援助技術領域実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成・確認							
第13回	福祉援助技術領域実習	巡回指導（スーパービジョン）							
第14回	福祉援助技術領域実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成①							
第15回	福祉援助技術領域実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成②							
評価方法及び評価基準	実習に関する取り組み状況（実習計画書等）と総括レポートや、実習事前学習、事後学習から社会福祉の専門性、専門職性、専門職制度をどのように理解したかを確認し評価する。また、SWOT分析法を活用して社会福祉								
教材教科書参考書	資料を配布する予定である。								
留意点	新型コロナウイルス感染症の状況により、現場実習が困難な場合も考えられる。その場合には学内実習とし対応する。								

科目名	福祉制度運営領域実習			単位数	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期 集中
区分	人間福祉実習科目	必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	実習	
授業の 概要	社会福祉の制度を確認しながら、実際に社会福祉施設をはじめとする事業が、どのように運営されているのかを把握する。								
到達 目標	社会福祉の制度を熟知し、社会福祉事業において、社会福祉法人の運営・管理が、どのように進められているのかについて、それぞれの事業計画をも把握することによって、社会福祉事業の運営を知る。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	オリエンテーション	実習先の確認							
第2回	実習目的	実習目的の確認							
第3回	実習計画書①	実習計画書の作成①							
第4回	実習計画書②	実習計画書の作成②							
第5回	実習計画書③	実習計画書の作成③							
第6回	実習①	(実習①)							
第7回	実習②	(実習②)・訪問指導							
第8回	実習報告	口頭による実習報告							
第9回	実習報告書の作成①	実習報告書の作成①							
第10回	実習報告書の作成②	実習報告書の作成②							
第11回	実習先についての整理	実習先の確認機関・施設の沿革							
第12回	事業計画①	事業計画の整理							
第13回	事業計画②	事業計画の報告							
第14回	社会福祉事業の経営	社会福祉事業の経営							
第15回	社会福祉事業の運営	社会福祉事業の運営							
評価 方法 及び 評価 基準	実習事前指導・事後指導での取り組みを含め、実習先からの評価を鑑みて評価する。								
教材 教科書 参考書	特に指定しない。								
留意点									